

子育てママの癒やし空間

「コミュニティカフェ」

中国地方で広がる

地域住民が集って情報交換や仲間づくりをする「コミュニティカフェ」が中国地方で広がっている。中でも子育て中の母親を主な対象にしたカフェは、忙しさや孤独に悩む母親たちにとって貴重な癒やしの場になっている。(治徳貴子)

今月下旬、広島市東区の牛田公民館であった「ちゃぶだいかフェ」には6組の母親と幼児が集まった。母親たちはおしゃべりしながらキャンドル作りを楽しみ、合間にコーヒーを味わった。おもちゃで遊ぶ子どもが大声を出したり走り回っても、母親たちは「お互いさま」とお構いなしだ。カフェを主宰するのは東区の主婦甲斐亜希子さん(35)。2人の娘が幼かったころは、ママ友をつくる機会が少なく、騒ぐ子と一緒に喫茶店で一服することも難しかった。「お母さんたちが集い、癒やされる場をつくりたい」と昨年7月から月3回ほど、牛田公民館と安佐南区の祇園公民館でカフェを始めた。パン教室など母親たちが楽しめるようなイベントを企画している。



「コミュニティカフェ」全国連絡会(東京)によると、コミュニティカフェは4、5年前から急速に増えた。高齢者福祉や国際交流などさまざまな分野のカフェが全国に約1500カ所あり、中国地方には少なくとも50カ所あるという。中でも、子育て系のコミュニティカフェは増加。同会は背景に育児中の母親の孤独や疲れがあるとみる。地域の絆が薄れて周囲に育児相談をできない中でインターネットの育児情報に振り回されたり、仕事を離れて育児をする戸惑いやキャリアへの焦りが芽生えたり。同会事務局の長寿社会文化協会の中島瀬津子さん(60)は「カフェで同じ立場の人と不安を共有し、先輩ママから『頑張らなくていい』と言われると楽になる。子どもと穏やかに向き合えるようになり、虐待防止にもなる」と指摘する。

ウ・ララ(福山市)は、村田泰子さん(62)が保育士経験を生かして経営する喫茶店。子どもが遊びやすいように店内に畳を敷き、ベビーヨガ教室も月2回開いている。中高年の常連客も赤ちゃんの声を楽しみにしていたり、抱っこしたり、親子を温かく見守っている。村田さんは「世代を超えた触れ合いの場となり、うれしい」とやりがい語る。



「浜田のまちの縁側(浜田市)」は、代表の栗栖真理さん(60)が自宅の1階を開放。2008年6月から子育て中の母親向けのランチを提供するなどしてきた。今年4月からは月2回、幼児の母親たちがスタッフとなり、ケーキや飲み物を低価格で若い母親たちによるまう企画「ママスガーデン」を始めた。

栗栖さんは「育児中の母親たちはサービスの受け手になるだけでなく、人の世話をする側に回ることで社会とつながっている実感を得られるはず」とカフェの進化に期待している。



「ちゃぶだいかフェ」に参加した母親にコーヒーをふるまう甲斐さん(中央)

(広島市東区の牛田公民館)



ママスガーデンでくつろぐ母親と子どもたち(浜田市の栗栖さん宅)

「同じ仲間」悩みや情報を共有